

行雲流水

No. 1 0 3 令和3年9月30日発行

ここからが成長のタイミングだ

校長 寒河江 正人

気持ちの良い**秋晴れ**だ。

明日から**10月（神無月）**である。

気が付けば、すでに「**今年度の半分**」が終了となった。

この半年間で、あなた自身は、どんな「**成長・発達**」を遂げることができたかな。

昨日、北村山中学校新人総体の「**報告集会**」が行われた。

各部の代表が、成績を報告し、あわせて「**学んだこと・今後の課題・決意**」等を述べた。

勝っても負けても、「何を学んだのか・支えてくれた人たちへの感謝」を忘れてはいない。

この「ふりかえり」こそが、次への目標・取り組みにつながっていくのだ。

マイクを握って、真剣に話す「**ことば・すがた**」は、実にたくましく感じられた。

すぐそばで、その姿をじっと見守りながら、そう感じた。

特に、**太田璃緒さんと矢口葉橘さんの「ことば・すがた」**は、立派だった。

背筋がピンとして、言葉にキレがあり、力強さが伝わってきた。

さすが「**部活動部長会**」の**会長と副会長**である。

「**本校選手団の代表**」にふさわしい。

3年生が部活動の第一線を退いた後、2年生を中心に取り組んできた。

この半年間、3年生の姿を模範として、2年生も着実に「**成長・発達**」したという証しだ。

中学校の教員をしていて、「**こういう瞬間**」に立ち会えることは「**至上の喜び**」である。

私たち教職員は、生徒諸君一人ひとりの「**健やかな成長・発達**」を常に願っている。

中学生は、**2年生の後半から「目覚ましい成長・発達」を遂げる子が多いものだ。**

きっと本校の2年生も、その「**可能性（伸びしろ）**」を秘めているに違いない。

大切なのは、「**日頃の生活のあり方**」だ。「**日頃の生活**」が、**いざという時に差が出る。**

日常の「**小さなあたりまえ**」を軽んじる者には、「**大きな目標**」は成し遂げられない。

さあ、これからが楽しみだ。